

厚生労働科学研究費補助金
(がん対策推進総合研究事業(がん政策研究事業)【松本班】)
分担研究報告書

「小児がん拠点病院を軸とした小児がん医療提供体制のあり方に関する研究」
分担研究課題「患者とその家族のQOLおよび満足度調査」

研究分担者 後藤 裕明 神奈川県立こども医療センター血液・再生医療科 部長

研究要旨

小児がん患者とその家族の QOL 向上をめざし、主に療養期間中に QOL を阻害する因子を抽出し、対策の提言を行うとともに、自ら実践し、その効果を検証することが本研究の目的である。今年度は、自施設で取り組んでいる小児がん患者の QOL を向上させる試みについて考察を行った。

A. 研究目的

小児がんは多くの場合、治癒可能な疾患である。しかし、治療には半年から 1 年以上におよぶ期間を要し、多くは入院で治療が行われる。治療による負担だけでなく、入院に伴う生活上の制約も患児の QOL を損なう大きな要因であることと想像される。家族にとっても入院している患者の介護は大きな負担となり、きょうだいがいる場合、健常なきょうだいに対する両親からの関わりが必然的に少なくなるという問題がある。

2012 年に小児がん拠点病院の制度が制定され、神奈川県立こども医療センターは関東甲信越地区の地域拠点病院として指定を受けた。小児がん拠点病院に求められる役割として、専門的な集学的治療の提供のほか、患者とその家族に対する心理社会的な支援、適切な療育・教育環境の提供が挙げられている。本研

究では、小児がん患者とその家族の QOL を阻害する因子を抽出し、可能な改善策を検討することである。本年度は当センターが行っている、患者 QOL の向上を目指した取り組みについて考察を行った。

B. 研究方法

小児がん拠点病院の指定を受けた後、神奈川県立こども医療センターでは外来化学療法室を開設した。骨髄抑制が重度ではなく、短時間の点滴で可能な抗がん剤治療は可能な限り外来で行うことで、不必要な入院を減らすことが目的である。外来化学療法室の稼働状況を検証した。

血液再生医療科医師、NST 医師、緩和ケアチーム医師、歯科医師、看護師(小児専門看護師・病棟看護師)、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、管理栄養士からなる小児がん栄養プロジェクトチームを立ち上げ、主に入院

治療を受ける患者の栄養管理、口腔内清潔管理を積極的に行うこととした。活動の一環として栄養に関する相談会（栄養サロン）を開催し、栄養や口腔ケアに関する保護者の悩みや疑問に応える試みを開始した。

C. 研究結果

2014年3月から12月の間で1か月に外来化学療法を施行されたのべ患者数は、1～15名（中央値12名）のべ回数2～26回（中央値17.5回）であった。外来化学療法室を利用した患者の疾患は、脳腫瘍（低悪性度グリオーマ）急性リンパ性白血病、ランゲルハンス細胞組織球症、腎芽腫などであった。従来、これらの患者は短期入院を繰り返して治療を受けていた。

小児がん栄養プロジェクトチームは全ての入院患者に対し、入院早期から栄養管理、口腔内管理を行うことで治療に伴う合併症を軽減することを目的に立ち上げられた。活動の一環として、患者家族の栄養に関する不安を解消することを目的に2013年から年に3回の栄養サロンを開催した。栄養サロン開催後は参加した家族に対してアンケートを用いた満足度調査を行った。2013年に行った栄養サロンに参加した家族は計20名（18家族）であった。栄養サロンについて企画・内容が「とても良かった」もしくは「良かった」と答えた家族は94%、「普通」と答えた家族は6%であった。100%の家族が参加する前、「栄養について心配なことがあった」と答え、栄養サロンへの参加により心配が「解決した」と答えた家族が59%、「どちらとも言えない」が35%、「あまり解決しなかった」が6%であった。

D. 考察

外来化学療法室の開設により、これらの患者が不必要に入院期間を延長されることがなく、短期入院を繰り返していた患者では、煩雑な入院手続きが必要なくなり在院時間が短縮できるなどの利点が考えられた。しかし外来化学療法室が実際に患者と家族のQOL向上に役立っているかは今後の検討課題である。

入院患者における食事や栄養の問題は家族にとって大きな関心事であると予想されるが、当センターでは多くの場合、るいそうなどの問題が重大化しないと医療者が栄養管理について積極的に関与することはなかったのが実状である。早期に多職種が患者の栄養管理に関わることで、治療の安全性向上、副作用の軽減化に役立っているか、現在も検証を続けている。栄養に関する相談会（栄養サロン）に参加する家族が多くいることは、この問題に対する家族からの関心の高さを伺わせ、今後も開催を継続する予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし